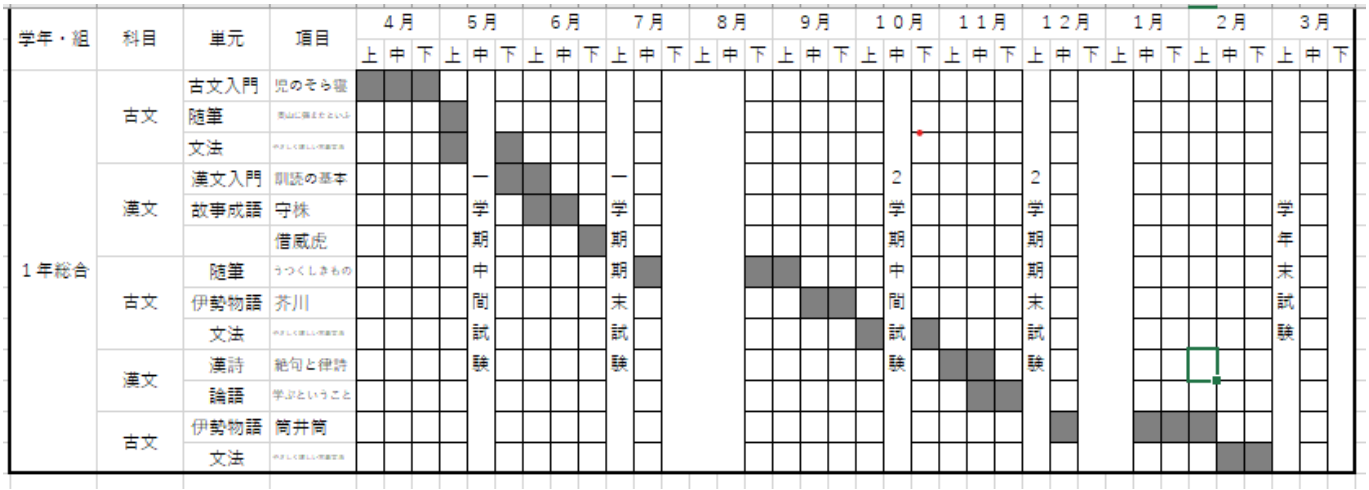
授業科目	現代の国語				2025 年度 国語科シラバス
学年（コース）	１学年	総合	単位数	３	
授業内容	○幅広いジャンルの優れた文章や作品を読む機会を多く持つ。 ○様々なテーマや内容に興味関心を持ち、自己の考えを深める。 ○評論の文章の構成や展開に注意し、作品の論旨を読解する。 ○小説に描かれた場面や情景を捉え、登場人物の心情やその変化を読み取る。 ○比喩など修辞的表現の特徴を掴み、その効果を読み味わう。 ○漢字検定３級レベルの漢字学習を通して語彙力の向上に努める。 ○ＩＣＴを用いて、情景を映像や画像を通して視覚的に味わう。				
到達目標	○随想や評論を通して論理的な文章の読解能力を育成する。 ○文学的文章の読解能力を育成する。 ○自分の考えや思いを表現する力を育成する。 ○漢字検定３級レベルの漢字の語彙力を育成する。 ○読むことにより、ものの見方や考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。				
評価方法	②　知識・技能（定期考査・小テスト） ②思考力･判断力･表現力（定期考査･レポート･調べ学習等） ③主体性（課題学習･振り返りシート･ノート等） 上記の①～③の観点から総合的に評価する。				
使用教材	教科書　「新編現代の国語」（東京書籍）「新編言語文化」（東京書籍） 副教材　「漢検　漢字学習　漢字トレーニング改訂版　５／４／３級」 （公益財団法人　日本漢字能力検定協会） 「論理エンジンＯＳ１」（水王舎）				
その他	○教科書の本文を読み、難読・難意語句の読み・意味調べを予習として行う。 ○予習・復習のしやすいノートを工夫して作る。 ○「漢字トレーニング」を活用し、基本的な語句を習得するとともに、漢字検定における自己の目標級（３級以上）を設定して、その取得に努める。				

●授業進度表（現代の国語　１年総合）

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		随想	こそそめスープ		■	■																																	
1	現	論理エンジン	レベル１・２				■	ー					ー										ニ					ニ									学		
		評論	水の東西					学	■	■	■		学										学					学									年		
年	代	論理エンジン	レベル３・４					期				■	期										期					期									末		
		評論	スキマが育む都市の緑と命のつながり					中					期	■					■	■			中					期									試		
総	の	随想	真夏のひしこ漁					間					末								■	■	間					末									験		
		論理エンジン	レベル５・６					試					試									■	試					試											
合	国	漢字学習	漢字検定対策					験					験										験	■				験											
		評論	美しさの発見																						■	■													
	語	論理エンジン	レベル７・８																								■												
		小説	羅生門																										■			■	■	■					
		論理エンジン	レベル９・10																																■	■			

授業科目	言語文化				令和７年度 国語科シラバス
学年(コース)	1学年	総合	単位数	2単位	
授業内容	◎基礎知識の習得、読解力の養成。 ＜古文＞ ・音読を行い、古文に慣れる。 ・古文の基礎知識(単語・文法など)を習得する。 ・作品の表現を理解し、内容を的確に捉える。 ・登場人物の心情を的確に捉える。 ・文法に即した口語訳を行い、基礎読解力を身につける。 ・古文に対する興味・関心を喚起する。 ＜漢文＞ ・音読を行い、漢文に慣れる。 ・漢文の基礎知識(故事成語・句法など)を習得する。 ・作品の表現を理解し、内容を的確に捉える。 ・登場人物の心情を的確に捉える。 ・句法に忠実な書き下しと口語訳を行い、基礎読解力を身につける。 ・漢文に対する興味・関心を喚起する。				
到達目標	・古文漢文の基礎知識の習得。 ・文法や句法に則った口語訳。				
評価方法	①知識・技能　　:定期試験・小テスト等 ②思考・判断・表現:定期考査・小テスト・レポート等 ③主体性　　:授業課題の提出やノートの提出・出欠状況・授業態度・振り返りシート等 ①～③を総合的に判断して評価を行う。				
使用教材	教科書　・「新編言語文化」(東京書籍) 副教材　・「完全傍訳　やさしくくわしい　古典文法　三訂版」(尚文出版) ・「記入してわかる　やさしくくわしい古典文法ノート　基訂版」(尚文出版) ・「必携　新明説漢文」(尚文出版) ・「新明説漢文ノート　修訂版」(尚文出版)				
その他	・ノートを工夫きちんと取り、提出すること。				

●授業進度表(1年総合)



授業科目	歴史総合				2025 年度 地歴公民科シラバス
学年･コース	1学年	総合	単位数	2	
授業内容	近現代の世界の形成過程を諸資料に基づいて学習する中で，日本と諸地域との関わりについて理解する。現在の社会の諸問題や諸課題の形成過程を学び，その原因や解決に向けた方策について考える。それぞれのテーマについて、資料から読み取り、自分の考えを文章にまとめたり、発表を行う。 第 1 部　近代化と私たち 第 2 部　国際秩序の変化や大衆化と私たち 第 3 部　グローバル化と私たち				
到達目標	・教科書や資料集から必要な情報を選びとることができる。 ・近現代における重要な出来事について，必要な知識を獲得している。 ・現代社会の抱える諸課題について，その形成過程や原因について理解している。 ・現代世界の抱える諸国間の対立について，その歴史的背景を理解し，今後の国際平和のために必要なことを考えることができる。 ・現代世界における諸課題について，歴史的背景や利害関係を理解したうえで，当事者意識をもってその諸課題の解決方法について考えることができる。 ・現在の諸課題についてどう取り組んでいくべきかについて話し合い，解決策を提示することができる。 ・世界の抱える諸課題について，グループ活動を通して，協働して理解を深め，プレゼンテーションを行うことができる。				
評価方法	「知識・技能」(40%)，「思考・判断・表現」(30%) については定期テストをもとに評価する。「主体的に取り組む態度」については，提出物，小テスト，プレゼン発表，レポート等をもとに評価をする。(30%)				
使用教材	教科書：『わたしたちの歴史　日本から世界へ』　(山川出版社) 副教材：『わたしたちの歴史　日本から世界へノート』(山川出版社)				
その他					

●授業進度表

学年･コース	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年生総合	歴史総合	第Ⅰ部	近代化と私たち		■	■	■	1学期中間試験		■	■	■	1学期期末試験			夏休み						2学期中間試験						2学期期末試験		冬休み									学年末試験		
		第Ⅱ部	国際秩序の変化や大衆化と私たち				■					■		■					■																				
		第Ⅲ部	グローバル化と私たち																	■	■				■	■	■			■	■	■	■	■	■					

授業科目	数学Ⅰ				２０２５年度 数学科シラバス
学年・コース	１学年	総合	単位数	３	
授業内容	第１章　数と式 ・式を，目的に応じて整理したり，置き換えたりするなどして多面的にとらえる力を培う。 ・今まで扱ってきた数を実数としてまとめ，数の体系についての理解を深める。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。 第２章　集合と命題 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。 第３章　２次関数 ・２次関数とそのグラフについて理解し，２次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識する。 ・２次方程式や２次不等式の解と２次関数のグラフとの関係について理解し，２次関数のグラフを用いて２次不等式の解を求められるようにする。 第４章　図形と計量 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比の相互関係などを理解できるようにする。 ・図形の構成要素間の関係を，三角比を用いて表現し定理や公式を導く力，正弦定理，余弦定理などを活用して問題を解決する力を培う。 第５章　データの分析 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力などを養う。				
到達目標	数と式，図形と計量，２次関数およびデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期考査、小テストなどで到達度を問う。課題やノートなどの提出物及び授業態度も考慮し、「知識技能」「思考力判断力表現力」「主体的に学びに向かう力」の３観点から総合的に判断する。				
使用教材	教科書：「最新　数学Ⅰ」（数研出版） 副教材：「パラレルノート　数学Ⅰ」（数研出版）				

●授業進度表

					4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単位	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 総合	数学Ⅰ	3	数と式	数と式					1学期中間試験					1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
				実数																																			
				1次不等式																																			
			集合と命題																																				
			2次関数	2次関数とグラフ																																			
				2次方程式と2次不等式																																			
			図形と計量	三角比																																			
				正弦定理・余弦定理																																			
			データの分析																																				

授業科目	数学Ａ				２０２５年度 数学科シラバス
学年・コース	１学年	総合	単位数	２	
授業内容	第１章　場合の数と確率 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第２章　図形の性質 ・三角形の性質についての理解を深め､それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第３章　数学と人間の活動 ・さまざまな人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を，数学を用いて考察できるような力を培う。				
到達目標	場合の数と確率, 図形の性質, 約数と倍数および１次不定志方程式について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期考査、小テストなどで到達度を問う。課題やノートなどの提出物及び授業態度も考慮し､「知識技能」「思考力判断力表現力」「主体的に学びに向かう力」の３観点から総合的に判断する。				
使用教材	教科書：「最新　数学Ａ」（数研出版） 副教材：「パラレルノート　数学Ａ」（数研出版）				

●授業進度表

					4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年･ｺｰｽ	科目	単位	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 総合	数学A	2	場合の数と確率	場合の数					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験										学年末試験		
				確率																																				
			図形の性質	三角形の性質																																				
				円の性質																																				
				空間図形																																				
			数学と人間の活動	約数と倍数																																				
				1次不定方程式																																				

授業科目	科学と人間生活				令和７年度 理科シラバス
学年･コース	１学年	総合コース	単位数	２	
授業内容	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。 １編　生命の科学 　　１章　微生物とその利用　２章　ヒトの生命現象 ２編　物質の科学 　　１章　材料とその再利用　２章　衣料と食品 ３編　光や熱の科学 　　１章　光の性質とその利用　２章　熱の性質とその利用 138 ４編　宇宙や地球の科学 １章　太陽と地球　２章　自然景観と自然災害				
到達目標	具体的な事例や観察，実験などを通して，科学の有用性を認識させたり，理科を学習する楽しさを実感させたりすることにより，将来にわたって自然や科学技術に対する興味・関心をもち続けることができるようにする。 自然科学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養のため，知見を広げ，既有知識と結び付けながら自分なりの意見を持ち，他者に伝えられるよう，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」（やり取り・発表），「書くこと」の５領域を有機的に関連付け，総合的に学習を行う。 ①　教科書を用いた内容理解，情報収集能力の向上 ②　教科書の探究活動を使った課題解決能力，創造力，表現力の育成 ③　その他にも随時，副教材や資料等を使用しながら，科学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養を涵養する				
評価方法	知識・技能（30）…定期試験、小テスト 思考力・判断力・表現力（35）…定期試験、授業内活動 主体的に学習に取り組む姿勢（35）…授業内活動、振り返りシート等の提出物から総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：科学と人間生活【東京書籍】 問題集：ニューサポート科学と人間生活【東京書籍】				

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月	
学年･コース	科目	単元	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	下
1年 総合コース	科学と人間生活	生命の科学					学期中間試					学期期末試										学期中間試					学期期末試									学年末試験	
		物質の科学																																			
		光や熱の科学																																			
		宇宙や地球の科学																																			

授業科目	化学基礎				令和7年度 理科シラバス
学年･コース	１学年	総合コース	単位数	２	
授業内容	教科書の基本的内容を的確に理解し，日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。化学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養のため，知見を広げ，既有知識と結び付けながら自分なりの意見を持ち，他者に伝えられるよう，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」（やり取り・発表），「書くこと」の５領域を有機的に関連付け，総合的に学習を行う。 ①　教科書を用いた内容理解，情報収集能力の向上。 ②　教科書の探究活動を使った課題解決能力，創造力，表現力の育成。 ③　その他にも随時，副教材や資料等を使用しながら，化学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養を涵養する。				
到達目標	化学の基本的な概念や原理・法則の理解から科学的な見方や考え方の資質・能力を向上させ，自律した学修者を目指す。 【第１編　化学と人間生活】 身のまわりにある物質を通して，「化学」を学ぶ特徴を理解する。 【第２編　化学と人間生活】 原子の構造及び電子配置と周期律の関係，物質の性質については化学結合との関係を理解し，物質の種類や形，性質などの科学的な見方ができる。 【第３編　物質の変化】 物質量を学習した後，化学反応の量的関係，酸と塩基の反応から化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し，それらを日常生活や社会と関連付けて考察できる。				
評価方法	知識・技能（30）…定期試験，小テスト 思考力・判断力・表現力（35）…定期試験，授業内活動 主体的に学習に取り組む姿勢（35）…授業内活動，振り返りシート等の提出物から総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：新編化学基礎【東京書籍】 問題集：ニューサポート化学基礎【東京書籍】				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年･コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年総合	化学基礎	化学と人間生活	化学とは何か					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			物質の成分																																				
		物質の構成	原子の構造と周期表																																				
			化学結合																																				
		物質の変化	物質量と化学反応式																																				
			酸と塩基																																				
			酸化還元反応																																				

授業科目	体育				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年男子	単位	2	
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・球技（ラグビー、バスケットボール、サッカー） 集団スポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、日々の練習や記録の蓄積を通じて、努力の成果を可視化し、自己肯定感・達成感の醸成につなげる。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・柔道 柔道の基本技術を身につける。相手の動きに対応した攻防ができる。強い精神力と相手を尊重し思いやる心を身につける。ルールを守り、安全に競技を行える。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いながら技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年男子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																				
		体ほぐし	体ほぐしの運動																																				
		体力づくり	体力を高める運動																																				
		球技	基本的技能運動																																				
			基本的技術運動																																				
		陸上	基礎、基本的な運動																																				
			合理的な運動																																				
		柔道	基礎、基本の特性運動																																				
			相手との対応した動き																																				
		持久走	体力向上の運動																																				
			精神力や忍耐力メントレ																																				
		体育理論	合理的な運動を学習する																																				
			練習方法や必要な体力																																				
			生涯スポーツの意味																																				

授業科目	体育				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年女子	単位	2	
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・バレー、バスケットボール それぞれのスポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、今後の学習活動に活かす。マラソン大会の安全対策とマラソン事前学習の習得とする。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いながら技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年女子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																				
		体力づくり	体ほぐしの運動																																				
			体力を高める運動																																				
		球技	基本的技能運動																																				
			基本的技術運動																																				
		陸上	基礎、基本的な運動																																				
			合理的な運動																																				
		持久走	体力向上の運動																																				
			精神力や忍耐力メントレ																																				
		体育理論	合理的な運動を学習する																																				
			練習方法や必要な体力																																				
			生涯スポーツの意味																																				

授業科目	保健				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年	単位	1	
授業内容	1学期　現代社会と健康（健康の考え方と成り立ち～私たちの健康のすがた） 安全な社会生活（事故の現状と発生要因～心肺蘇生法） 2学期　現代社会と健康（生活習慣病の予防と回復～精神疾患の予防） 3学期　現代社会と健康（精神疾患の回復～健康に関する環境づくり） クラス単位の講義形式。 動画視聴や実技、グループ学習、調べ学習なども行う。 「生活習慣」『ストレス』など現代社会を特徴づけるこれらの言葉が示唆するように、私たちの周囲には健康を脅かす数多くの危険因子がある。それらについての知識を深め心身ともに健康的な生活を送るためにどうすればよいかを学ぶ。				
到達目標	現代から将来にわたっての、健康的な生活とは何かを考え、心身の健康の価値を日常生活の中で確認し、自ら進んで行動できるようにする。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	教科書「現代高等保健体育」（大修館） ノート「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
その他	必履修科目				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	保健	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち					1学期中間試験				■		1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			私たちの健康のすがた											■																									
			生活習慣病の予防と回復																■																				
			がんの原因と予防																	■																			
			がんの治療と回復																	■																			
			運動と健康																		■																		
			食事と健康																			■																	
			休養・睡眠と健康																				■																
			喫煙と健康																					■															
			飲酒と健康																						■														
			薬物乱用と健康																							■													
			精神疾患の特徴																									■											
			精神疾患の予防																									■											
			精神疾患からの回復																												■								
			現代の感染症																													■							
			感染症の予防																														■						
			性感染症・エイズとその予防																															■					
			健康に関する意思決定・行動選択																																■				
			健康に関する環境づくり																																			■	
			事故の現状と発生要因		■																																		
			安全な社会の形成			■																																	
			交通における安全				■																																
			応急手当の意義とその基本					■																															
			日常的な応急手当							■																													
			心肺蘇生法									■																											

授業科目	芸術　音楽　Ⅰ				令和７年度 芸術科シラバス
履修　類・学年	１年	総合（選択）	単位数	２	
授業内容	主に音楽理論の学習とバンド編成による楽曲の演奏体験を通して、音楽的感性を深め、演奏の基本手法を実習すると共に、主体的かつ創造的な芸術的表現を行う。 １学期　音楽理論（楽典）と実習　視唱　基本奏法の練習 ２学期　基本奏法の練習と合奏・声楽パートの練習及び弾き歌い。発展的な音楽理論の学習 ３学期　発展的合奏表現 ただし、日本音楽史・西洋音楽史については年間を通して適宜行う。				
到達目標	○基本的楽典の理解。調性音楽の原理理解 ○メンバーの志向等を共有・共感しながら演奏課題曲の選定と担当楽器の設定を行う ○各楽器の基本奏法の理解と演奏。コード・ネームに関連した楽典の理解と連携。 ○各楽器に関連した機材等の効果および操作理解 ○個人練習・合奏練習のメニュー理解と稽古実施 ○声楽的観点による歌唱表現の工夫　○弾き歌いを中心にした楽曲の解釈と理解 ○音楽における様々な様式と歴史の理解および応用				
評価方法	**［単位修得要件］** 出席日数、授業参加練習態度、持ち物（楽譜など）、順番で行うレッスン等の演奏実技評価、振り返り冊子への記録と記入、学期ごとの学科（筆記）試験。これらを「知識・技能」40％「主体性」30％「表現力・判断力・思考力」30％の観点別で評価する。				
使用教材	教育芸術社　MOUSA　Ⅰ　及び　グループ毎の課題曲楽譜　　資料プリント等				
その他	**［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］** 小・中学校で培われた音楽的演奏能力および音楽的知識一般。ただし楽器演奏の経験および能力は特に問わない。 **［注意事項］** この授業は主体的な音楽表現を試みる事を目的としている。そのため音楽理論の専門的な知識の理解や、初めて演奏する事になる楽器の演奏などについて、指定された課題を丁寧に練習していくことが求められる。これらの総体として音楽的表現の可能性を実体験し追求して欲しい。				

●授業進度表

学年・類	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
総合1年	音楽	楽典	音部記号　音名　音符と休符　小節と拍子とリズム　楽					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験	
			音階と調																																				
		機能和声の論理	音階から和音（コードネーム含む）																																				
			基本カデンツ																																				
			準固有和音																																				
		ソルフェージュ	視唱																																				
		器楽演奏と弾き歌い	各楽器の基本奏法																																				
			発展的な奏法																																				
			合奏時の機材使用法と留意点																																				
			合奏練習																																				
			弾き歌い																																				
		表現とパフォーマンス	曲の表現プラン																																				
			舞台芸術としての観点とその理解																																				
		日本音楽史	古墳時代　奈良時代　平安時代																																				
			鎌倉時代　安土桃山時代　江戸時代																																				
			明治時代　昭和初期																																				
			現代																																				
			郷土の民謡と芸能																																				

授業科目	芸術　美術 Ⅰ				令和7年度 美術科シラバス
履修　類・学年	１年	全コース（選）	単位数	２	
授業内容	●高校美術オリエンテーション ●初めての油彩画　油絵の具を使った表現 ●鉛筆を使った表現 ●水彩絵の具を使った表現 ●作品鑑賞 （その他の制作、状況に応じて変更あり）				
到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。美術の表現活動を通して美術を好きになる。 ＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんと行う。（忘れ物をしない） ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 ・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 ・作品について良さや美しさ、感じたことをじっくり話し合う。 ・年3回の定期テストもしっかり準備して臨む。				
評価方法	［単位修得要件］ 課題に要求される習熟度、作品の完成度、授業態度、出席日数、学年末の学科試験を加味し「知識・技能」40%、「主体性」30%、「表現力・判断力・思考力」30%で評価する。				
使用教材	光村図書　高校美術１　資料・配布プリント　他				
その他	［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］ 小・中学校で学んだ美術の基本的知識、技能。				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 総合・探究・特進コース	美術1	素描基礎	スケッチ					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
		初めての油彩画	油彩の基礎技法																																				
		遠近法 透視図法 色彩基礎	素描（鉛筆）																																				
			着彩（絵の具）																																				
			デザイン表現																																				
			イメージ表現																																				
		工業デザイン 日本の色彩	けん玉制作、アイコン制作、オリジナルペットボトルデザイン																																				
		鑑賞と美術史（世界・日本）	古今東西の作家の作品を鑑賞																																				

授業科目	書道Ⅰ				令和７年度 芸術科シラバス
履修　学年・類	１年	全コース（選）	単位数	２	
授業内容	・　書写と書道の違いを理解する。姿勢・執筆法、用具・用材を理解する。 ・　書の歴史を知る。 ・　中国の歴史的作品の鑑賞・理論を通し、臨書（実技）をする。 　　・　楷書の学習 　　・　行書の学習 ・　平仮名、片仮名の成り立ちを理解し、平安時代の仮名の基礎を学ぶ。 　　・　いろは歌・連綿 ・　漢字仮名交じりの書を通して、伝達から表現を目的とした書作品を学ぶ。 ・　日常生活における実用的な書を学ぶ。				
授業計画	・　楷書の学習（中国古典：九成宮禮泉銘・孔子廟堂碑・雁塔聖教序・顔氏家廟碑） ・　行書の学習（中国古典：蘭亭序、日本古典：風信帖） ・　仮名の学習（平仮名、片仮名の成り立ち・いろは歌・連綿） ・　生活の中の書（実用書道） ・　硬筆の学習（平仮名、片仮名の正しい書き方） （その他、時間や状況に応じて変更有り）				
到達目標	・　書写と書道の違いを理解する。 ・　書く姿勢、筆の持ち方、用具・用材についての知識を理解する。 ・　漢字の変遷と様々な書体の成立と基本用筆について理解する。 ・　作品を鑑賞し、臨書を通し、字形や運筆の特徴を表現する。 　（背勢と向勢・蔵鋒と露鋒・方勢と円勢の違い等） ・　行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解し、表現する。 ・　平仮名、片仮名の成り立ちを理解する。 ・　仮名の成立と基本用筆・連綿の流動美を理解し、表現する。 ・　生活で必要な実用書道の基礎・基本的な事項を理解し、文字の原則・原理に基づいて書くことができる。				
評価方法	毎時間の作品提出、習熟度、出席日数、授業態度、持ち物（教科書と道具）、学期末の学科試験を加味して知識･技能 40%、思考・判断・表現 30%、主体的に学習に取り組む態度 30%を総合的に評価決定する。				
使用教材	光村図書　書Ⅰ 資料・プリント教材等				
その他					

●授業進度表

				4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 全コース	書道	復習	書写の復習					1学期中間試験						1学期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			書写から書道へ																																				
		楷書	九成宮禮泉銘																																				
			孔子廟堂碑																																				
			雁塔聖教序																																				
			顔氏家廟碑																																				
		行書	蘭亭序																																				
			風信帖																																				
		制作	伝達から表現へ																																				
		仮名	いろは歌・連綿																																				
		調和体	生活の中の書																																				
		硬筆	平仮名・片仮名																																				

授業科目	英語コミュニケーションⅠ				令和7年度 英語科シラバス
学年・類（コース）	1学年	総合	単位数	3	
授業内容	・辞書の使用法 ・発音指導及びテキストの音読 ・単語・熟語の習得 ・教科書の内容理解 ・語彙力を増やすために週１度の単語テストを実施 ・ICT教材によるリスニング、スピーキング（会話）の指導				
到達目標	（1学期） ・わからない単語は辞書を引いて調べて読むことができる。 ・教科書の1文をある程度理解できる。 ・1文の英文を聞くことができる。 ・簡単な指示を聞いて理解することができる。 ・ゆっくり教科書の本文を聞いて50％程度リピートすることができる。 （2学期） ・文のつながりを考えながら教科書の1つの段落をある程度理解できる。 ・教科書の本文を普通の速さで聞いて50％程度リピートすることができる。 ・日常の身近なテーマについて30％程度聞き取ることができる。 （3学期） ・段落ごとのつながりを考えながら教科書の1つのパートをある程度理解できる。 ・簡単に書かれた地図や案内などを見て、イラストや写真も参考にしながらある程度その内容を理解することができる。 ・教科書の本文を普通の速さで聞いて70％程度リピートすることができる。 ・日常の身近なテーマについて50％程度聞き取ることができる。				
評価方法	・知識技能・思考判断表現・主体的に学習に取り組む態度の三つの観点より総合的に評価を行う。 ・知識技能（定期試験・スピーキング・リーディング・リスニングテストなど） ・思考判断（定期試験など） ・主体的に学習に取り組む態度（提出物・振り返りシート・授業参加度などより）				
使用教材	・BIG DIPPER English Communication Ⅰ ・BIG DIPPER English Communication Ⅰ ワークブック				
その他	・英単語ターゲット 1200 （タンゴスタを用いて定期的に試験を実施） ・エースクラウン英和辞典 ・チャート式 Big Dipper 高校英語				

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単元	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年総合	コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 1					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
		Lesson 2																																				
		Lesson 3																																				
		Lesson 4																																				
		Lesson 5																																				
		Lesson 6																																				
		Lesson 7																																				
		Lesson 8																																				
		Lesson 9																																				
		Lesson10																																				

授業科目	論理表現Ⅰ				令和7年度 英語科シラバス
学年・類（コース）	1学年	総合	単位数	2	
授業内容	・辞書の使用法 ・中学での既習事項の復習 ・文法事項の説明及び練習問題 ・教科書の内容理解 ・授業を理解しやすくする補助プリントでの学習				
到達目標	（1学期） ・単語や文にミスはあっても、英文を書くことができる。 ・わからない単語は辞書を引いて調べることができる。 ・自分についての基礎的情報を簡単な英文で書くことができる。 ・発音やアクセントの間違いを気にせず話すことができる。 ・挨拶や自己紹介など、自分のことについて簡単な英語で話すことができる。 （2学期） ・自分や身の回りのことについて簡単な5～6文程度の英文で書くことができる。 ・物ごとの「好き」「嫌い」とその理由を簡単な英分で書くことができる。 ・自分の日常生活や、ものの好き嫌いについて、単語を繋げながらでも話すことができる。 ・クラスメートに簡単な質問を沈黙せずに対応できる。 （3学期） ・自分や身の回りのことについて10文程度の英語で書くことができる。 ・簡単な英語を使って、自分についてクラスで発表できる。 ・クラスメートに簡単な質問とその応答に時間をおいても答えることができる。				
評価方法	・授業への取り組み（参加・関心・意欲・態度など） ・教科書の文法の理解度 ・提出物・単語小テスト ・定期考査 ・上記項目を観点別3項目に分類し、評価する。				
使用教材	・Big Dipper English Logic and Expression Ⅰ ・Big Dipper English Logic and Expression Ⅰ ワークブック				
その他	・チャート式 Big Dipper 高校英語 ・英単語ターゲット 1200（タンゴスタ） ・エースクラウン英和辞典				

学年	教科	教科書	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年創造	英語 論理表現Ⅰ	Big Dipper English Logic and Expression Ⅰ	Part1 L1～L4 はじめに①～③/My Friends 主語/動詞/可算・不可算名詞																																				
			Part 1 L5～L8 My Family ～ Our teachers 現在/過去/進行形/未来/完了																																				
			Part1 L9～L13 Visiting a Museum～Advice 助動詞/文型/受身/不定詞																																				
			Part1 L14～L17 Hobbies～Our team 動名詞/分詞/比較																																				
			Part1 L18～L21 Neighbors～A Birthday Gift 関係詞/仮定法/接続詞																																				

授業科目	情報Ⅰ				令和７年度 情報科シラバス
学年・コース	１学年	総合コース	単位数	２	
授業内容	**1. 情報社会の問題解決** ・ 情報・メディアの特性 ・ 問題解決の考え方 ・ 法の重要性と意義 ・ 情報社会と情報セキュリティ ・ 情報技術の発展による生活・社会の変化 **2. コミュニケーションと情報デザイン** ・ メディアとコミュニケーション ・ 情報のデジタル化 ・ 情報デザイン **3. コンピュータとプログラミング** ・ コンピュータのしくみ ・ アルゴリズムとプログラム ・ モデル化とシミュレーション **4. 情報通信ネットワークとデータの活用** ・ 情報通信ネットワークのしくみ ・ 情報システムとデータベース ・ データの活用				
到達目標	1. 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・表現・創造し、受け手の状況をふまえて発信・伝達できる。 2. 情報手段の特性を理解し、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法が理解できる。 3. 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画する態度を養う。				
評価方法	3 つの観点「知識・技能」（40%）、「思考・判断・表現」（30%）、「主体的に学習に取り組む態度」（30%）をもとに、各学期の定期試験、実技課題、提出物や授業に取り組む姿勢等を総合的に判断して評価する				
使用教材	教科書 『 情報Ⅰ 』 日本文教出版、副教材 Life is Tech！ Lesson				
その他	Google Classroom を活用する				

●授業進度表

学年・コース	科目	単元	項目	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年全コース	情報Ⅰ	情報社会の問題解決	情報・メディアの特性									1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験											
			問題解決の考え方																																			
			法の重要性と意義																																			
			情報社会と情報セキュリティ																																			
			情報技術の発展による生活・社会の変化																																			
		コミュニケーションと情報デザイン	メディアとコミュニケーション																																			
			情報のディジタル化																																			
			情報デザイン																																			
		コンピュータとプログラミング	コンピュータのしくみ																																			
			アルゴリズムとプログラム																																			
			モデル化とシミュレーション																																			
		情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークのしくみ																																			
			情報システムとデータベース																																			
			データの活用																																			